

船舶事故等調査報告書

平成23年1月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010横第151号	
事故等種類	浸水	
発生日時	平成22年8月4日（水） 09時40分ごろ	
発生場所	東京都大島町大島南西方沖 大島元町港突堤灯台から真方位198° 3.4海里付近 (概位 北緯34° 41.9′ 東経139° 19.7′)	
事故等調査の経過	平成22年8月12日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	モーターボート ^{ナギ} Nagi、7.9トン	
船舶番号、船舶所有者等	290-45253神奈川、有限会社吉田不動産ほか2人	
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士	
死傷者等	なし	
損傷	冷却海水ホースが破損、主機始動モーター、交流発電機等が濡損	
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか7人が乗船し、大島南西方沖を航行中、平成22年8月4日09時40分ごろ主機の冷却水温度警報が作動したことから、船長が、機関室内を確認したところ、主機のオイルパンが浸かる付近まで浸水していることを認めた。</p> <p>船長は、同乗者とともにバケツで排水作業を行うとともに、118番通報で海上保安本部に救助を依頼した。</p> <p>本船は、大島漁業協同組合所属の漁船が来援し、えい航されて元町港に入港した。</p>	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 3、視界 良好	
その他の事項	<p>主機は、清水による間接冷却型で、冷却清水タンクの熱交換器と潤滑油冷却器との間を接続する冷却海水系統の配管にL形の耐圧ゴム管（以下「ゴム管」という。）が使用されており、同管が長さ約130mmの範囲で破損していた。</p> <p>船長は、本事故当日、主機を始動したのち、機関室内を点検していなかった。</p> <p>船長は、本事故発生時、主機の運転音が大きく、海水の噴出する音に気付かなかった。</p> <p>本船は、平成7年に建造され、平成18年1月に中古で購入されたが、冷却海水系統のゴム管は、購入以前の取替え状況が明らかでなく、購入後も取り替えられていなかった。また、船長又は整備業者による点検も行われていなかった。</p>	
分析	乗組員等の関与	あり
	船体・機関等の関与	あり
	気象・海象の関与	なし
	判明した事項の解析	本船は、大島南西方沖を航行中、主機の冷却海水系統のゴム管が破損したため、同破損箇所から海

	<p>水が入ったことにより機関室が浸水したものと考えられる。</p> <p>ゴム管は、経年劣化による微細な亀裂を生じて破れ、海水の噴出するうちに短時間で破口が拡大した可能性があると考えられる。</p> <p>船長は、主機を始動した後に機関室点検を行っていたら、また、整備業者に定期的に依頼するなどして機関室内の点検を行っていたら、本事故の発生を防止できた可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、大島南西沖を航行中、主機の冷却海水系統のゴム管が経年劣化によって破損したため、同破損箇所から海水が入って機関室が浸水したことにより発生した可能性があると考えられる。</p>